

歴史教育の明日を探る

「授業・教科書・入試」改革に向けて



2015年
8月1日
(土)

日本学術会議・史学委員会では、これまでも高校歴史教育について、「歴史基礎」の設置、用語の見直しやジェンダー視点を入れた教科書の書き換え等の提言を行ってきました。今回のシンポジウムでは、ジェンダー視点の重視とともに、模索が続く「授業・教科書・入試」という3つの改革を連動させて、新しい歴史教育の実践を具体的に考えたいと思います。第一部で「改革の三位一体」を現場の声とつなぐ議論をした後、第二部では、その教材実例として「慰安婦」問題を取り上げます。アメリカの歴史学者らから出された「日本の歴史家を支持する声明」(2015年5月5日)や、「慰安婦」問題に関する日本の歴史学会・歴史教育者団体の声明(2015年5月25日)といった研究者の声、歴史研究の成果は、教育現場にどのように反映されるのでしょうか。実践的に探ってみたいと思います。

於：日本学術会議講堂 13:00～17:00
(入場無料・事前予約不要)



- ◆13:00 趣旨説明 井野瀬久美恵(第一部会員・甲南大学教授)
- ◆13:10～14:40
- 第一部 授業・教科書・入試**
～歴史教育改革を三位一体で考える～
- 報告1 歴史教科書をどう書き換えるか?—ジェンダーの視点から: 三成美保(第一部会員・奈良女子大学教授)
- 報告2 高校歴史教育のあり方をめぐる議論: 久保亨(第一部会員・史学委員会委員長・信州大学教授)
- 報告3 制度の壁か思考の壁か?—暗記オンリーでない歴史の試験をめざして: 桃木至朗(連携会員・大阪大学教授)
- コメント 現場の声をつなぐ: 小川幸司(長野県長野高等学校教頭)
- ◆14:50～15:45
- 第二部 教材実例としての「慰安婦」問題**
～研究の到達点を踏まえた教育実践と市民の育成～
- 報告1 長志珠絵(連携会員・神戸大学教授)
- 報告2 小浜正子(連携会員・日本大学教授)
- コメント ドイツとの比較から: 姫岡とし子(連携会員・東京大学教授)
- ◆15:45～16:55 **総合討論**
- 司会: 井野瀬久美恵・平野千果子(連携会員・武蔵大学教授)
- ◆16:55 閉会の辞 久留島典子(第一部会員・東京大学教授)



主催：日本学術会議史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会
共催：日本学術会議史学委員会歴史認識・歴史教育に関する分科会
科研費基盤研究(A)「ジェンダー視点に立つ『新しい世界史』の構想と『市民教養』としての構築・発信」 <http://ch-gender.jp/wp/>
後援：ジェンダー史学会・日本史研究会
問い合わせ先：甲南大学井野瀬研究室 kumie.inose@cao.go.jp
会場へのアクセス：<http://www.sci.go.jp/ja/other/info.html>